

普遍ニュースレター

Newsletter from Center for General Education, Chiba University

Design : CHIHARA Kazuhiko

2009.10 No.04

“普遍ニュースレター”は、普遍教育センターの活動を中心に
普遍教育・大学教育の動向に関する情報を定期的に紹介していきます（年3回刊行予定）。

●教養コア科目、その安定供給に向けての活動

普遍教育科目の一構成要素である教養コア科目は、新入生を学問の世界へ誘うために、各授業内容の習得に加え、学問に対する興味関心の喚起を目的に設定されています。普遍教育センターは、このような教養コア科目の安定供給と質の維持向上に向けて、平成20年度、教養コア科目に関するワーキングを行いました。その1成果「教養コア科目担当ルール案」は、この科目の安定供給に向け考案され、その主要部分は、次の3点です。①各教養コア教員集団を3もしくは2グループに分割し、各グループの代表者が主任、副主任の役割を担う。②教養コア教員集団の各グループは、過去の実績に応じて定められた授業コマ数を担当する。③主任と副主任は、授業担当者の選定と交渉、依頼に責任を持つ。また、授業の依頼に際し、主任、副主任は、担当候補者所属部局の長に支援を要請できる。

普遍教育センターは、平成21年6月初旬から7週間をかけ、各学部を訪問し、これらに関し意見交換を行いました。多くの学部は、学部長、副学部長、教務委員長、教務委員、学務系事務職員等が出席くださり、充実した意見交換となりました。その結果、前述した専門教員集団主導・学部支援型の組織による教養コア科目提供について、大枠では全学部が了解して下さいました。しかし、各グループ教員数と担当コマ数不均等の是正、グループ化適切性の再検討、所属集団変更機会の提供、グループ毎の担当コマ数の柔軟化などの要望があることも確認できました。また、ほとんどの学部から当該学部の教員が担当している普遍教育科目、全学共通専門基礎科目一覧を作成してほしいという要請を受けました。これは、専門教員集団主導・学部支援型の組織により普遍教育を提供していくためには、必須資料であることを確認しました。これらの資料を作成すると共に、可能な範囲で必要な修正を行い、実現に向かうべく、活動を継続致します。

今回、全学部を訪問させていただき、直接、お話を伺うことの重要性を痛感いたしました。ご多忙にもかかわらず、意見交換に時間をお割き下さり、心より感謝申し上げます。普遍教育センターは、全学出動体制を前提に創設されており、全学の協力なくしては成立しません。今年度は、普遍教育提供に関わる規約の作成、全学共通専門基礎科目提供に関わる組織の検討などの課題にも取り組む予定であり、これらに際しましても各学部のご意見を頂いていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

普遍教育センター長 舟島 なをみ

拡大学習会「ティーチングポートフォリオを学ぼう」を開催しました

9月1日、大学評価・学位授与機構から栗田佳代子准教授をお招きし、普遍教育センター拡大学習会・全学FD研修会「ティーチングポートフォリオを学ぼう」を開催しました。ティーチングポートフォリオ（以下、TP）とは、大学教員が「自らの教育活動について振り返り、様々なエビデンスによってこれらの記述を裏付けた教育業績について厳選された記録」であり、アメリカ・カナダの大学で普及している教育改善等のツールとして、現在、注目を集めています。栗田先生は2冊の翻訳書を出版され、TPについて各地で講演等をなされている我が国の第一人者の一人です。



今回の拡大学習会は、栗田先生からのTPの特徴や構造、目的の説明、メリット、導入への課題が講演されたあと、ミニワー

クショップとして自分自身の教育活動を振り返り、参加者同士で話し合う時間が設けられました。講演では、TPは教員個人が教育活動を振り返り教育改善を行う教育業績資料であるだけでなく、組織として個々の教員の教育活動の理念を把握できることや見えにくい教育活動を拾い上げることができることなどのメリットがあることが紹介されました。ワークショップでは、約40人の異なる学部、異なる専門分野の参加者が、具体的な授業・教育の取り組みについて意見交換するなかで、自分自身の授業・教育を振り返り、相対化する機会となりました。

出席者へのアンケートからは、「専門領域の異なる方との話し合いから考えることの重要性に気づかされた」「ワークショップにて講演内容が具体的にわかった」「実質的なFDだった」とのコメントも寄せられました。普遍教育センターでは、具体的・実践的なFDにも取り組んでいきます。（白川優治）

TA研修会およびTA報告会の実施について

普遍教育センターでは、これまで各研究科の協力を得ながら多くの授業でTAを利用してきましたが、TA利用を有効に機能させるためにも、また協力いただいている各研究科に対して説明責任を果たす上でも、事前の研修会と事後の報告会が必要であると判断し、今年度前期から学期毎にTA研修会およびTA

報告会を実施することになりました。

今年度前期のT A研修会は4月3日(金) 10:30～12:00に総合校舎C号館で行い、出席者は39名でした。T A報告会は、8月5日(水) 14:30～16:00にA号館201教室にて実施しました。出席者は13名でした。ともに出席者は多くはありませんが、地道に回を積み重ねていくことによって、内容的にも充実を図り、出席者数の増加にも努めたいと考えています。特に報告会はT Aの意見を運用面で活かすためにも重要ですので、今後もリフレクションシートを利用したグループでの意見交換を中心とした運営にするつもりです。(山内正平)

普遍教育におけるmoodleの利用について

普遍教育センターでは、本年度よりオープンソースのeラーニングソフト「moodle」を試験的に導入し、次年度からの本格運用を目指していますが、既に本年度前期より多くの先生方にご利用いただいています。

これを受けて前期授業がほぼ終了に近づいた7月28日に、普遍教育センター学習会「LMS事始め(3)」を開催し、お二人の先生より前期授業におけるmoodle利用の実践例を紹介いただきました。moodleにコースを立てれば、そこからPDF・パワーポイント・動画など、ほとんどあらゆる形式の授業用資料を受講者にダウンロードさせることや、web上でのレポートの授受、小テスト・アンケートの実施、メールによる授業予定の一斉連絡などが、すべてmoodleを利用して簡単に行うことができるようになります。7月の学習会では、こうした実践例とともに、moodleの利用が受講者から比較的高い評価を受けたことも紹介されました。moodleによるコース管理のもとでは、小テストやアンケートの実施によって常に授業の進行状況と自身の理解度を確認できること、コース上において授業資料の一覧が可能であるため、授業の振り返りに有効である

言語教育センターより

今年で4年目を迎える言語教育センター主催の連続公開講座について、少し詳しく報告します。

もともとこの講座は、千葉県内の中学校・高等学校の英語科教員のために、授業で遭遇することが多く、それでいてなかなかうまく説明ができない疑問を、教育現場の事情に即して、平明に解説することを主旨とするものとして始まりました。それが、回を重ねるうちに、社会人や千葉大生にも情報が伝わり、今年度の講座には中学校・高等学校・大学の教員をはじめ、高校3年生から千葉大生そして社会人まで、60名の参加がありました。県内の方々はもちろんのこと、東京や埼玉の高校教員や神戸からも中学校教員の参加がありました。定員は30名でしたが、予想外に多くの参加希望者があったために、定員の2倍まで受け入れました。

8月22日(土)に開かれた本年度の講座のテーマは「不思議な英語表現」。英語は、構造的にはドイツ語と近縁関係にあり、語彙の面ではフランス語の影響を圧倒的に受けています。英語の語彙の過半数(55%)はフランス語です。このような英語の性質を、英語科教員だけではなく一般の人々にもわかりやすく解説するには、英語・ドイツ語・フランス語の深い知識が必要になります。そこで今年度は言語教育センターの英語教員、ドイツ語教員、フランス語教員がタッグを組んで取り組みました。

今年度の講座では、英語にのみあって他の言語にない表現、他の言語にあって英語にない表現、通り一遍の英語の知識では理解できない英語表現と、「不思議な英語表現」を3つの種類に分けて、各1時間ずつ解説しました。なにしろ聴講者が高校3年生から大学教員までと、ふつうでは考えられない構成だったので、企画者としてはじつにやりがいのある講座でした。例年のように、この講座の内容を編集して本学学生の英語学習に資するような形にする予定です。

(言語教育センター 久保田正人)

普遍ニュースレター No.4 2009年10月発行

発行・編集：千葉大学 普遍教育センター

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 Tel: 043-290-3609 (普遍教育課)

E-mail: fuhen-info@office.chiba-u.jp URL: http://fk.chiba-u.jp/

こと、などがその理由です。

とは言うものの、今まで扱ったことのないソフトを、マニュアルを頼みに運用するのは確かにいささか億劫に感じられるかもしれません。そこで9月9日には、普遍教育センター戦略連携室主催によるmoodle講習会「moodleはじめの一步」を企画し、moodleの基本的な運用方法を、実際にノートパソコンを操作しながら習得していただく講習会を行いました。今後も折に触れてこうした講習会を開催するほか、支援要員の派遣も計画していますので、戦略連携室(senryaku-renkei@office.chiba-u.jp)までお尋ねください。ぜひ多くの先生方にmoodleをご利用いただき、その利点を感じていただきたいと思います。(山田 賢)

普遍教育センターから

学生懇談会の開催(10月20日16時半開催予定)

普遍教育センターでは、毎年、普遍教育について、授業を受けた学生の立場からの率直な意見に耳を傾け、その改善を図るために学生との懇談会を実施しています。学生からの積極的な授業提案も取り入れて今後の授業に活かしていく機会としています。

第3回普遍教育シンポジウムの開催(10月27日13時半開催予定)

第3回普遍教育シンポジウム「普遍教育のデザインとマネージメントー全学による協働運営の実質化を目指してー」を10月27日(火)に総合校舎2階201で開催する予定です。

今回のシンポジウムでは、全教員の理解と協力のもとに普遍教育を十全に運営するために、千葉大学の普遍教育には現在どのような課題があり、それをいかに克服することができるのかを、他大学の事例も含めながら考える機会とします。多くの教職員の方々のご参加をお待ちしています。